

# 令和3年度徳島市八万中学校総括評価表

学校教育目標 : 人権を尊重し、知・徳・体の調和のとれた人格の形成のもと、未来に向かって生きる生徒の育成 (今年度の重点目標) ~チーム八中 輝け八中生~ 1 豊かな心の育成 2 たくましく生きる力の育成 3 学力の向上 4 家庭・地域との連携						
本年度の重点目標 【評価項目】	具体的な活動計画 及び 【評価指標】	自己評価		学校関係者評価	次年度への 課題と改善策	
		達成状況と実施状況	評定	意見		
<b>1【豊かな心の育成】</b>						
①他人を思いやる心や感動する心の育成。	①年間計画に沿った、道徳・人権の授業を展開する。 ②職員会議や各種委員会を通し、全ての教職員の共通理解を図る。 ③学力向上検討委員会で本校の課題について話し合い、解決策を検討する。	【評価指標】 ・友達や自分を大切にできる生徒が85%以上。	「自分のまわりの人の人権を大切にしたい生活ができている。」に、「あてはまる・少しあてはまる」と回答した生徒が、94%となっている。人権意識を高揚させ、いじめのない学校を目指すと考えている。	A	・他人を思いやる心や生命を尊重する心、自然や美しいものに感動する心、正義感や公正さを重んじる心などの育成のためには、学校行事は不可欠である。状況等をみながら来年度に期待したいと考える。	・「自分も大切に、他人も同じように大切に考える」ということは、教師の指導も加わり、学校生活の中で、自然と育っている。しかし、考え方が違ったり、立場が違う人に対して、関わることには抵抗感があると感じる。人をいたわり、敬う心を、学校生活全般を通して育む必要がある。また、保護者に対しても、課題等を共有する必要がある。
②人権尊重の精神の育成。	④アンケート調査や教育相談等を通して、生徒の人間関係の状況やいじめにつながる事案等の把握に努める。	【評価指標】 ・生徒の人権意識を高めると感じている保護者が80%以上。	「障がい者差別、外国人差別など『差別』の不当性を伝えている。」に、「そう思う、ややそう思う」と回答した保護者が、93%となっている。人権意識高揚の教育・啓発の継続を考える。	A		
<b>2【たくましく生きる力の育成】</b>						
①仲間と共にさらに良くなろうと、問題解決を図る力の育成。	①互いの良さを認め合えるよにと、常時指導を行う。 ②組織的に対応ができるように、「報・連・相」の周知徹底を行う。	【評価指標】 ・学校のルールを守り、友達と共により良い学校生活を送る生徒が85%以上。	「学校のルールを守り、同じ学校の友達とより良い学校生活を送ることができている」では、「あてはまる」「少しあてはまる」と回答した生徒が95%であった。 身近なルールや決まりがなぜ存在するのかといった意義や、どうして重要なのかについて学び、様々な見方で物事を考え、話し合う中で、考えを深める必要があると考える。	A	・基本的な生活習慣の確立(気持ちの良い返事や挨拶)、よりよい人間関係の育成(いじめ事案の未然防止、早期発見、早期解決)、道徳教育の充実のため、学校、家庭、地域で取り組む。	・「何事においても感謝の気持ちをもつことができる。生命を大切にする。前向きな態度で、自分のことは自分でやる。優しい心と感謝・謙虚な気持ちを、併せもつ。」以上のことが、理想とすることだが、このような心と態度を、教師がもち、日常の生活で示すことが求められていると考える。
②望ましい集団活動を通して、生き方について自覚を深める。	③学校行事の中で、生徒一人一人の力を伸ばし、粘り強く育てる。 ④行事・体験活動の実践を行う中で、生徒会活動の充実と推進を図る。					
<b>3【学力の向上】</b>						
①与えられた課題や小テストに意欲的に取り組み、基礎学力の定着を図る力の育成。	①各教科で、生徒に身につけさせるべき基礎学力の内容と取組方法を明確にする。	【評価指標】 ・授業を通して基礎的な知識や技術が身についたと感じている生徒が80%以上。	「授業を通して基礎的な知識や技術を身につけることができている」に対して、「あてはまる」「少しあてはまる」と回答した生徒が92%となっている。学習する生徒の視点に立った授業を、これからも考える。	A	・学力の育成には、日々の「授業」への取組、「学習規律」の徹底、「学習環境」の充実、「家庭学習」の充実等への、取組が大切である。また、音声表現では、世の中の事象や感じたこと、考えたことを言葉に直して表現したり、言葉で表現されたものに実感を伴ってとらえることが重要と考える。	・「確かな学力」「基礎学力」を身につけさせるには、教師自身の「指導方法の点検・教材解釈及び開発」は、不可欠と考える。PDCAサイクルを機能させ取り組む。
②目的や場面に応じ、適切に話したり聞いたり話し合ったりして、自分の考えを豊かに表現する力の育成。	②相手意識・目的意識・場面意識・方法意識・時間意識・評価意識に配慮しながら、指導を行う。	【評価指標】 ・自分の考えを他人に伝えたり、文章に書いたりすることは得意であると感じる生徒が70%以上。	「自分の考えを他人に説明したり、文章に書いたりすることが得意である」に対して、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答した生徒が50%となっている。「読むこと」と「書くこと」を関連づけた指導を考える。	B		・「話す、聞く」活動の成果はわかりづらい。また、「日常の授業」での評価となると、困難極まる。表現することの目的・内容とともに、表現する内容項目に対しての、知識の充足量も重要。
③授業の準備・チャイム着席ができ、チャイムとともに授業を始めることができる。	③全教職員の共通理解のもと、生徒に意義等を周知徹底し指導を行う。	【評価指標】 ・授業等、チャイムスタートできている生徒が85%以上。	「授業準備をしてチャイム着席ができている」に対して「あてはまる」「少しあてはまる」と回答した生徒が91%となっている。落ち着いた学習に取り組める環境づくりにも役立つと考える。	A		・教師が早めに教室に行き、生徒が席に着いた状態で授業をチャイムでスタートできるように実践できている。今後も、継続し、生徒が習慣として定着できることを目指す。
<b>4【家庭・地域との連携】</b>						
①オープンスクールや日々の教育活動について、適切に情報発信する。	①開かれた学校として、HP・学年だより・学校だより等を発行し、学校の様子を発信する。	【評価指標】 ・学校は、保護者に学校の様子をHP・学校だより・学年だより等でよく伝えることができていると感じている保護者が85%以上。	「学校は、保護者に学校の様子をHP、学校学年だより等で、よく伝えている」に対して、「そう思う」「ややそう思う」と回答した保護者が83%となっている。受け取る対象者からのさまざまな意見を、生かすと考えている。	B	・社会の変化に伴い、子供や家庭を取り巻く環境は大きく変化しているが、全ての子供は、適切な養育を受け、健やかな成長・発達や自立等が保障されるべきと考える。	・学校と地域がお互いパートナーとして、結びつきを強め、学校・家庭・地域がそれぞれの責任をより一層果たすことが求められている。このようなことを念頭に、学校一丸となり取り組む。
②地域の教育力を活用する。	②地域の行事への積極的参加や人材活用により、地域の持つ教育力を積極的に取り入れる。	【評価指標】 ・学校は、地域行事への参加や地域の人材活用など、地域との連携が図られていると感じている保護者が85%以上。	「学校は、地域行事への参加や地域の人材活用など、地域との連携が図られていると感じる」に対して、「そう思う」「ややそう思う」と回答した保護者が71%となっている。地域の教育力を高め、持続可能な地域作りも念頭におく必要があると考える。	B	・社会全体で家庭教育を支えられる環境も必要と考える。	・コロナ禍ということもあり、学校・地域の行事も、縮小・中止が相次いだ。地域行事への参加とともに、地域の様々な人と関わりが、ますます希薄化している。

「評定」の基準 A: 十分達成できた B: おおむね達成できた C: 達成できなかった

